

# 平成 29 年度 読書・教養講座 6/6

本校では生徒の教養を高める一助として、様々な場で活躍されている方々をお招きし、毎年「読書・教養講座」を実施しています。今年度は、本校がSSHに指定されていることもあり、『科学技術の発展とそれに伴う人間活動』について、富山県立大学知能デザイン工学科教授（富山県立大学附属図書館長）の平原達也先生にご講演をいただきました。

## 参加者の感想

- ・一番興味深かったのは、ダミーヘッドの部分。自分が聴いている曲にダミーヘッド（マイク）が多々使用されていて関心があったので、実際に実験する場面を見ることができて嬉しかった。
- ・「便利さ」は人間を不器用にするというのではなく怖いです。このままだと、何も考えなくなるような人が本当に増えてしまいそうです。人工知能が栄えるであろう時代に生きる私たちが、そのことについてじっくりと考え、結論を出していかなければいけないと感じました。
- ・科学が進歩することで無能な人間が増えた？つまり、今、人類は進歩することで進歩しにくくしている。進歩しない方がいいのではないか？
- ・シンギュラリティ（技術的特異点）の話があったが、もう 10 年もすれば知能だけでなく体のつくりも機械の方が人間を上回り、人間にできる作業は完全に機械に乗っ取られていくのだろうと思った。特異点を越えた頃には、人間にできることはあるのかなと思った。今、まだ自分たちが技術を使いこなしている間に、機械に頼りっぱなしになるのではなく、人間の頭で考え、人間自身も向上していく必要があるのだなあと思いました。



- ・人工知能についての話が一番印象的でした。今、将棋などのゲームの関係で話題ですが、その構想が私たちの生まれる 10 年以上前からあったというのは驚きました。20 年前のスーパーコンピュータと普段使いのスマートホンが同スペックになるほどの成長を続けるコンピュータが、今後どのように発展するのか楽しみになる講演でした。
- ・私は医学部を目指していますが、技術の発達に伴い、「生」と「死」の境も曖昧になるのではないかと不安に思いました。生命に関する判断はやはり人間に委ねられるべきものであると思います。

- ・「ヒト（の技術）が生物（の進化）を凌駕する」という言葉に現実的な怖さを感じました。
- ・先生が紹介された本は、どれも知らないものばかりでした。面白そうな本ばかりだったので、読んでみたいと思います。